

告遷都之由焉、

〔日本紀略 桓武〕延暦十二年二月辛亥遣參議治部卿壹志濃王等告遷都於賀茂大神。三月戊子遣參議壹志濃王等奉幣於伊勢太神宮告以遷都之由。癸卯告遷都由於山陵山階先田月戊戌奉幣帛於諸國名神以遷于新都及欲征蝦夷也。

造内裏

〔續日本紀淳仁〕天平寶字三年十一月戊寅遣造宮輔從五位下中臣連張弓越前員外介從五位下長野連君足造保良宮六位已下官五人。

○按ズルニ造内裏ノ事ハ居處部内裏篇ニ在リ、

修理神社
昇神階

〔續日本紀桓武〕延暦三年十一月戊申○戊申原作甲子是月戊朔无甲子據一本改天皇移幸長岡宮丁巳遣近衛中將正四位上紀朝臣船守叙賀茂下上二社從二位又遣兵部大輔從五位上大中臣朝臣諸魚叙松尾乙訓二神從五位下以遷都也。乙丑遣使修理賀茂下上二社及松尾乙訓社。

〔日本紀略 桓武〕延暦十三年十月丁卯鴨松尾神加階以遷都也。

修佛事

〔日本書紀孝德〕白雉二年十二月晦於味經宮請二千一百餘僧尼使讀一切經是夕燃二千七百餘燈於朝庭內使讀安宅土側等經於是天皇從於大郡遷居新宮號曰難波長柄豐崎宮。

遷神社

〔續日本紀聖武〕天平十六年三月丁丑運金光明寺大般若經致紫香樂宮比至朱雀門雜樂迎奏官人迎禮引導入宮中奉置安殿請僧二百轉讀一日戊寅難波宮東西樓殿請僧三百人令讀大般若經。

〔神宮雜例集〕一中臣氏祖神○中

元明天皇和銅二年己酉都在奈良京之時近奉崇居春日神社也。

〔大鏡太政大臣道長〕鎌足のとむまれ給へるは常陸の國なればかしこのかしまといふところに氏の御神をすましめたてまつり給ひて略中みかどならにおはしましてときはかしことほとして大和みかさ山にぶり奉りて春日明神となづけたてまつりていまに藤氏の御氏神に